

卓越大学院プログラム 令和元年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成30年度	整理番号	1801
機関名	北海道大学	全体責任者（学長）	名和 豊春
プログラム責任者	長谷川 晃	プログラムコーディネーター	堀内 基広
プログラム名称	One Healthフロンティア卓越大学院		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムの教育研究拠点は、人獣共通感染症・動物感染症、ならびに化学物質による健康・社会経済的被害、という感染症病原体（バイオハザード）と化学物質（ケミカルハザード）の2大ハザードに起因する問題について、基礎研究からグローバルな実践活動までを包括的に実施する世界的な先進研究拠点を目指す。また、総合大学の利点を活かし、獣医系と医歯薬保健科学系の連携を強化して学位プログラムを運営する。プログラムの一翼を担う組織として、多様な人材が、組織・研究室・部門の壁を越えてOne Healthを共通目標に集い教育研究を進めるプラットフォームである動物疾病診断制御研究センターを設置する。本プログラムでは、これらの教育研究リソースと教育体制により、疾病制御・予防の理念を明確に持ち、バランス感覚に優れた国際性を備え、動物、人および生態系の健康を俯瞰的に捉えOne Healthに係る問題解決策をデザインして実行できる専門家（知と技のプロフェッショナル）を育成する。（調書P5）

本学では、創基150年を迎える2026年を見据え、「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」を平成26年3月に策定し、中長期的な戦略として5つの目標を設定した。高度な知のプロフェッショナルを輩出する本プログラムは、当該目標の一つである「国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材の育成」に寄与するものである。また、第4期中期目標期間において、6つの要素を備える指定国立大学法人としての指定を目指す本学にとって、国内外連携機関とともに学位プログラムを構築し、人材の育成・交流及び新たな共同研究の創出を持続的に展開する卓越拠点を形成することは、まさに本学の改革戦略上に位置している。（調書P19）

2. プログラムの進捗状況

- ・平成31年4月に第一期生20名を選抜した。また、令和元年10月には、One Health Ally Courseに参加する学生15名（北海道大学8名、帯広畜産大学6名、酪農学園大学1名）を選抜した。
- ・外部資金で特任准教授2名を雇用し国際連携活動の強化を図った。また、特任准教授1名、特任講師1名、特任助教2名、特定専門職員1名を雇用して、プログラムの推進を図った。
- ・獣医学院、国際感染症学院の大学院カリキュラムに則り、アカデミックイングリッシュをはじめ、第一期生の一年次の大学院授業を実施した。
- ・卓越大学院プログラムの活動として、学生の主体性を養成するインDEPENDENSモジュールのProgress, WISE/LPセミナー、および国際シンポジウム Sapporo Summer Symposium for One Health (SaSSOH) を開催した。
- ・One Health Ally Courseのサブモジュールである、One Health Seminar、One Health Transferable Training、およびOne Health Collaborative Training を実施した。
- ・プログラム担当者が、WHO西太平洋事務所（フィリピン）、FAOアジア地域事務所（タイ）、在ザンビアJICA事務所、在モンゴルJICA事務所、OIEアジア太平洋事務所などを訪問し、感染症対策に係る協働活動を実施するとともに、インターンシップの派遣・受け入れの協働教育体制の構築を進めた。
- ・チュラロンコン大学（タイ）、カセサート大学（タイ）、ザンビア大学（ザンビア）、エジンバラ大学（英国）、マドリード大学（スペイン）、モンゴル生命科学大学を訪問し、本プログラムにおける大学院教育と研究連携の推進を図った。
- ・迅速微生物同定用MALDI-TOF質量分析装置など動物疾病診断制御研究センター（DDCセンター）の検査・診断で活用する機器および大学院生の研究活動に使用する共同利用機器を導入した。また、帯広畜産大学と酪農学園大学に遠隔授業システムを導入し、特別講義等の配信およびOne Health Ally Courseの実施に活用した。

【令和元年度実績：大学院教育全体の改革への取組状況】

- ・本事業を通じた大学院教育全体の改革への取組状況、及び次年度以降の見通しについて
- ・北海道大学の全ての大学院博士課程の学生、および連携大学である、帯広畜産大学および酪農学園大学の大学院博士課程の学生が履修可能な、大学院・大学間共通特別教育プログラム「One Health Ally Course」の説明会を、北海道大学、および帯広畜産大学で計3回実施した。令和元年10月に、北海道大学8名（獣医学研究院1名、国際感染症学院4名、歯学院2名、保健科学院1名）、帯広畜産大学6名、酪農学園大学1名の計15名を受入れ、One Health Ally Courseを開始した。
- ・本プログラムを本学の大学院教育改革の中心的な取組と位置づけ、全学的見地から他の大学院教育プログラムとの連携を推進するために、大学院教育改革ステーションを設置した。